



英語塾の教え子たち。左から
坂梨コーチ、高橋アナリスト、
西、中島の両選手



竹田 英司

最近、「英語塾はどうですか」「可能なら自分も教えてほしい」という声をいただいたので、近況を紹介したい。

JTサンダーズ広島での「教え子」は中島健太、金子聖輝、西知恕の各選手と坂梨朋彦コーチ、高橋和也アナリストの計5人。週に2回程度、練習や勤務を終えて夕食を取った後なのでお互い大変だ。それでも英語を学びたいとい



声掛けは「上を噛む!」

う教え子たちの気持ちは尊い。普通に授業をすると私も眠くなるので、まずは英語の歌と一緒に聞いてから歌詞を解説する。和訳だけでは伝わらない言葉遊びや文化背景から文法項目まで教え、締めくくりに一緒に歌えば眠気も吹っ飛ぶ。教え子たちはバレーボールを通じて体で学ぶことを経験しているため、語学の上達も早いと感じる。

本欄愛読者の皆さまには、教え子たちに好評だった英会話の豆知識をお中元として届けたい。歓迎を表す「WELCOME」というおなじみの単語、これが意外と発音が難しい。最初のWは麺類を冷ます時のように唇を突き出すし、Lも日本語にない音なので「ウエルカム」と言っても通じにくい。ところが早口の日本語で「上を噛む」と声に出すと英語らしく聞こえるし、驚くほど通じるのでお試しください。

試合で皆さまの地元JTサンダーズ広島が伺った際、外国人選手にはぜひとも「上を噛む!」と声を掛けていただきたい。

(JT広島マネジャー)